

令和元年度 地方公共団体定員管理研究会（第3回）【議事要旨】

1. 開催日時 : 令和2年2月5日(水) 10:00~12:00

開催場所 : 総務省 選挙部会議室

出席委員等(五十音順)

〈学識者〉

- ・浅羽 隆史(成蹊大学法学部教授)
- ・西村 美香(成蹊大学法学部教授)
- ・原田 久(立教大学法学部教授)

〈地方公共団体〉

- ・中澤 雅人(新潟県上越市総務管理部人事課長)
- ・森川 綾子(静岡市総務局総務課主査)
- ・山岸 正幸(群馬県みなかみ町総務課長)

2. 議事経過

(1) 開会

(2) 平成31年地方公共団体定員管理調査結果について

(3) 地方公共団体における定員管理の取組

- ・事例発表(みなかみ町)

(4) 定員管理の参考指標活用状況調査等(アンケート)の団体へのフィードバックについて

(5) 報告書(骨子案)について

(6) 閉会

3. 概要

(1) 平成31年地方公共団体定員管理調査結果について

【事務局説明】

議事について、資料1のとおり説明。

(2) 地方公共団体における定員管理の取組

【事例発表(みなかみ町)】

議事について、団体資料のとおり説明。

【意見交換】

- ・「類似団体別職員数の状況」では、面積が広いことが試算職員数と実職員数の乖離要因であると考えられるが、一方で、定員モデルでみると、面積の広さも十分勘案されており、乖離要因は力を入れている観

光政策によるものと考えられる。

- ・定員モデルの試算職員数と比べて実職員数が少ない要因として、支所における総務事務の集約化があげられる。支所の機能を少なくする、必要のない業務をなくすなど、徐々に効率化を進めてきた。

(3) 定員管理の参考指標活用状況調査等（アンケート）の団体へのフィードバックについて

【事務局説明】

議事について、資料2のとおり説明。

【意見交換】

(参考指標全般について)

- ・各団体が参考指標を使ってみようと思えるような工夫を検討すべき。
- ・参考指標を使用する意味は、職員数が適正かどうか判断することにあるが、職務遂行や政策との関係で考え、客観的な視点から団体を取り巻く状況と職員数についての考え方を説明できることが重要である。
- ・それぞれの指標の使い方について、簡素でわかりやすいパンフレットのような形式で団体に提供することで、団体の担当者が指標を使用するきっかけになるのではないか。

(定員モデルについて)

- ・定員モデルの試算職員数と実職員数の差について、自らの団体の施策による差だということは分析できるが、他団体でも同様の傾向があるのかはわからない。全国的な職員数の増減事由のトレンドを提供すれば、各団体で全国の傾向と比較した分析が可能になるのではないか。
- ・定員モデルについて、団体名を入力すれば試算職員数が表示できる状態で団体に提供したことで、各団体が類似団体などの他団体の試算職員数も簡単に算出できるようになるなど、定員モデルの使用方法的幅が広がったように感じる。
- ・各団体が定員モデルを活用しているかどうかについて、活用している理由と活用していない理由を整理し、どういった団体が定員モデルを積極的に活用しているのか傾向を分析すると今後の検討に役立つのではないか。
- ・これまでは定員モデルを職員数削減のために活用してきたが、今後は市民サービスの維持やマンパワーの確保の観点から、定員モデルを職員数の維持あるいは増加のための根拠として活用する可能性を示すことができれば、全国の団体が活用するのではないか。

(4) 報告書（骨子案）について

【事務局説明】

議事について、資料3のとおり説明。

【意見交換】

- ・「適正な定員管理」という表現には削減の意味合いで受け取られかねない。職員を配置すべきところには配置するという表現をすべきなのではないか。